文化財通信くまもと

第28号
平成22年3月
熊本県
教育委員会

文化課恒例行事　皆様のご参加をお待ちしています！

熊本県教育庁文化課では毎年県内各地で遺跡の発掘調査を行っています。その成果を多くの皆様に知っていただくためのイベントを企画・実施しています。

発掘調査現場公開

夏と秋に調査中の遺跡を広く公開するものです。発掘体験なども実施し、発掘調査現場のナマの雰囲気を体感していただくよう工夫しています。昨年は700名を超す方々が参加。全ての遺跡を見学された方もいたほどです。身近にある地域の文化財に気づくきっかけになればと考えています。

熊本県発掘調査速報会「熊本　ば！　発掘する」

毎年2月に熊本市内で開催しています。出土品やスライドを使い、「一遺跡一テーマ」で各遺跡の調査成果を発表します。調査中の体験談も織り交ぜた臨場感あふれたものとなっています。子供から参加できる体験学習もあり、家族で楽しめる内容です。昨年の参加者はなんと300名以上！熱気に包まれた速報会となりました。

平成 21 年度　新指定・登録文化財

国指定史跡　隈部氏館跡

隈部氏館跡の庭園跡

所在地　山鹿市菊鹿町上永野 1516 番地 2 ほか
指定日　平成 21 年 7 月 23 日

隈部氏館跡は、中世の肥後国で勢力のあった隈部氏の 16 世紀代の館跡です。館跡は、八方ヶ岳の南西側山腹、標高 340m ほどの地点にあります。天正 15 年（1587）、肥後国主の佐々成政の支配に反旗を翻した肥後国衆一揆の中心的人物として有名な隈部親永が隈府城（菊池市）に移るまで、隈部氏が本拠としていました。

館跡の中心には現在、礎石建物や庭園の跡などが残っています。そのうち、庭園跡は、立石を起点として、地形にそって順次高さを低くしながら要所に石を立てる構成になっていて、中世の館跡に残る庭園として貴重なものです。

国指定史跡　棚底城跡

所在地　天草市倉岳町棚底字尾崎 1060 番地ほか
指定日　平成 21 年 7 月 23 日

棚底城跡は、天草上島南部にそびえる倉岳の南側に位置する中世の城跡です。室町時代の天草地域では、天草五人衆と呼ばれる小領主たちが抗争を繰り返していました。棚底城跡は、この天草五人衆のうち、上津浦氏と栖本氏が争っていた地として当時の文献にも記録されています。

棚底城跡は、東西に約 340m の規模で作られ、8 つの郭を連ねた構造をしています。郭内からは、大型の建物跡や、岩盤に掘りこまれた柱穴群が見つかりました。城が使用されていた時期は、14 世紀後半から 16 世紀後半頃と考えられます。また、貿易陶磁器類、中国産天目碗・茶臼などの茶の湯道具や碁石などが出土し、注目されます。

国選定重要文化的景観　通潤用水と白糸台地の棚田景観〈追加選定〉

所在地　上益城郡山都町白藤ほか（白糸台地一帯）
追加選定日　平成 21 年 7 月 23 日

平成 20 年 7 月に選定されましたが、今回、さらに一部の区域を追加して選定されるとともに、緑川を利用した流通・往来を視野に入れて整備された石畳道等の景観要素が新たに評価されました。

国登録有形文化財　姫井橋

所在地　菊池市旭志弁利字楠原・中須（合志川の上流）
登録日　平成 22 年 1 月 15 日

大正 14 年 (1925)、隈府町列組合が、材木を運ぶ馬車を渡すためにかけました。馬も通れる丈夫な橋という意味で地元では「馬橋」と呼ばれています。

県内では初期の鉄筋コンクリート橋であり、欄干を兼ねる太いアーチ材から鋼を垂らし路面をつり下げる「下路式」鉄筋コンクリートアーチ橋として日本最古のものです。デザインも優れており、田園の中で独特の景観を形成しています。

国登録有形文化財　旅館金波楼

所在地　八代市日奈久上西町字西町又 361 他
登録日　平成 21 年 4 月 21 日

県内にある明治時代の木造 3 階建建造物の中でも最大級を誇ります。

木造 3 階建の本館は明治 42 年 (1909)、初代社長松本岩三郎が建てたもので 2、3 階が客室になっています。木造 2 階建の大広間棟は昭和 13 年、2 代謙吉が建てたもので、80 畳の大広間には杉を編んだ天井、銘木を用いた欄間などに数寄屋(注)のデザインがみられます。異なる様式（寄棟・切妻）を組み合わせた屋根、各階に庇と大きな窓がある外観も特色の一つです。

（注）数寄屋造…簡素な床の間、深い庇、自然の素材を自然のままに使うなど、茶室（数寄屋）の風情を取り入れた質素な建築様式。

国登録有形文化財　多良木町交流館石倉（旧多良木町農業会米倉庫）

所在地　球磨郡多良木町大字多良木 1542-1
登録日　平成 21 年 11 月 2 日

良質の石材に恵まれた人吉・球磨では、明治末期から農産物を大量に貯蔵する石倉が盛んに建てられ、現在でも 160 棟もの石倉が存在しています。

中でも、多良木町農業会（町農協の前身）が、国鉄湯前線を利用した貨物輸送のために建てた石倉群は最大規模を誇ります。東棟・西棟が昭和 10 年に、南棟がその 2 年後に、幅 9m、奥行 18m、壁厚 30cmの同一規格で建てられました。3 棟が並ぶ石倉群は他にはなく、圧倒的な存在感があります。

県指定重要文化財（工芸）　①「大門観音堂の鰐口」②「大門薬師堂の鰐口」

①大門観音堂の鰐口

②大門薬師堂の鰐口

員数：各一口　材質：銅
所在地　八代市坂本町葉木
指定日　平成 21 年 6 月 23 日

①寸法：最大幅 30cm / 厚さ 9.4cm / 直径 25.5cm / 重量 4.9kg、

②寸法：最大幅 23.4cm / 厚さ 9.4cm / 直径 20.8cm / 重量 3.1kg

鰐口は、神仏に参詣者の来意を告げるために打ち鳴らすもので、多くは社寺の軒下に吊されています。

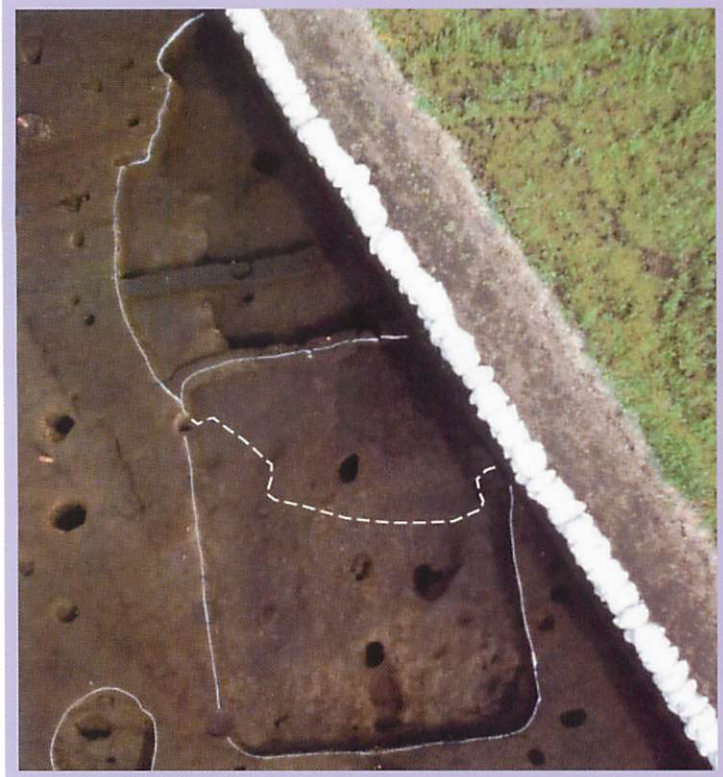
大門観音堂の鰐口は、当初、天草郡久玉天神に正平 18 年 (1363) に寄進された県内最古の鰐口です。観音堂に移動した経緯は、南北朝期から戦国期において相良氏の天草への出兵などがあり、戦勝品として持ち込まれた可能性が高いものです。

大門薬師堂の鰐口は、永徳元年 (1381) に大隅国筒羽野村（現鹿児島県湧水町）妙楽寺に寄進され、31 年後に日州真幸院（現宮崎県えびの市）千光寺に再寄進されたもので、県内で 4 番目に古い鰐口です。大門薬師堂に移動した経緯については、日州真幸院は日向・大隅・肥後の在地勢力の拮抗した地域であることから、相良氏が関与したものと推測されます。

2 口の鰐口は、学術的に貴重であるとともに、南北朝期の基準作例であり、熊本の金工品を代表するものです。

発見！発掘現場から

幅・津留遺跡　～県内最古の花弁状住居跡の発見～



発見された花弁状住居跡

阿蘇郡南阿蘇村と高森町高森にまたがって広がる遺跡から花弁状住居跡と呼ばれる、熊本では大変めずらしい住居跡が発見されました。竪穴住居跡に花びら状に張り出した部分があることから、このように名付けられました。花弁状住居跡は、これまで宮崎県や鹿児島県を中心に、南九州特有の弥生時代の竪穴住居とされてきましたが、平成20年11月に佐賀県みやき町において、北部九州で初めて発見されました。南九州で見つかっていたものより、100年以上は古いものであることがわかり、花弁状住居は北部九州から南九州に広がったのかもしれないということで話題になりました。

今回、幅・津留遺跡で発見された花弁状住居跡は、直径約7mの円形の穴に、花びらのように取りまく奥行約45cmの張り出した部分がつくられた、大変大きな竪穴住居跡です。北部九州で発見されたものと南九州で発見されているものとのちょうど中間の時代のものであることから、花弁状住居跡が南九州へ広がっていったことがわかってきました。

弥生時代の九州において、いろいろな文化がどのように伝わっていったのか解明するためにも、今回の発見は大きな鍵となっていくのではないかと考えられます。

塔平遺跡　～見えた柱の跡！見つけた建物跡群！～

二棟並んだ掘立柱建物跡

上益城郡益城町にある遺跡で、今年度の調査では古代以降の掘立柱建物跡が4棟見つかりました。

掘立柱建物は地面に穴を掘り直接柱をたてた建物です。地面を広く掘り込んだ竪穴住居跡とは違って、小さな柱穴しか残っていません。そのため発掘調査で見つかるたくさんの穴の中から、建物跡を見つけるのは難しいものです。幸い今回は、同規模の柱穴が等間隔で並んでいたので見つけ出すことができました。また、4棟全てが同じ方角を向いて建てられていることも解りました。当時の人たちが方角を意識して建物を建てていたことを教えてくれます。

池辺寺関連遺跡　～見つけた!1200年前の赤い鉄鏃～

出土した鉄鏃

熊本市池上町地内にある、史跡池辺寺跡に関連する奈良時代から江戸時代までの複合遺跡です。今年度は、池辺寺の名前の由来となった味生池があったと推定されている場所を調査しました。

特に興味深い遺物は、池と思われる場所から出土した鉄鏃です。平安時代初め頃のものと思われますが、鏃を差し込むタケ製の矢柄まで残っていたことは驚きでした。全国的にも極めて珍しい事例で、単なる武器以外の用途を考えています。水辺付近で見つかったことから、味生池に関係する水辺のお祭りで用いられたかもしれません。

二本木遺跡群【春日地区11次調査】　～発見！大型掘立柱建物～

作業員の皆さんが柱跡に立っている大型掘立柱建物跡

熊本駅周辺立体交差事業のため、今年度は3つの調査区で発掘調査を行いました。特に大きな成果は地表から約1.4m下で、平安時代の初め頃（9世紀代）の大型の掘立柱建物跡が発見されたことです。

痕跡からわかる柱の太さは径約30cm、柱を建てるために掘った穴は径1m前後もある非常に大きなものでした。柱と柱の間は約2.4m（8尺）、北側と東側には庇を持つ特殊な建物で、5本の柱が並んだ東側の一辺は約10mになります。瓦はほとんど見つかっていないため屋根は瓦葺きではなかったようです。

村遺跡　～いまもむかしもムラだった？～

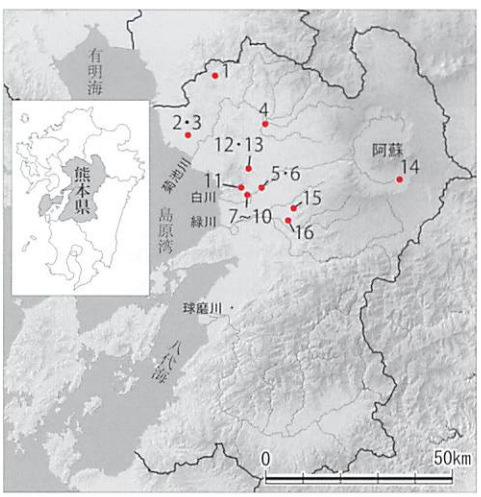
むかしの家の跡（大きな穴が掘ってある部分）

玉名郡和水町西吉地にある遺跡で、北方には国衆一揆で有名な国指定史跡「田中城跡」があります。今年度の調査では、主に古墳時代の集落と中世の墓を確認しました。方形か長方形をした古墳時代の家の跡が大小あわせて9軒見つかっており、当時の食器を始め多くの品々が一緒に見つかりました。中世の墓は、地面に方形や長方形の穴を掘って埋葬したもので3基程確認できました。中には北枕を意識したものもあったようです。副葬品として白磁小壷と瓦器椀を納めていたものもあります。

時代によってその姿を変えて在り続けた村遺跡。今回の調査でその一端を垣間見ることができたのではないでしょうか。

平成 21 年度　県文化課発掘調査一覧

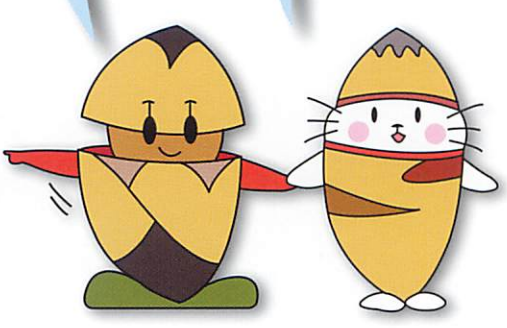
	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物
1	村遺跡	玉名郡和水町	古墳，中世	竪穴住居跡，土坑墓	土師器，鉄器，白磁，瓦器，土師器
2	山田松尾平遺跡	玉名市	古代，弥生	溝，水田跡？	弥生土器，土師器，須恵器，鉄滓，石帯（丸鞆）
3	築地館跡	玉名市	弥生，古代，中世，近世	住居，道，土坑	弥生土器，鉄器，石器，須恵器，土師器，青磁，白磁，磁器，瓦
4	橋田条里跡	菊池市七城町	中世，近世	井戸，土坑，溝跡	五輪塔（空風輪・地輪）土師器，白磁，青磁
5	新屋敷遺跡 1	熊本市	古代，近世	竪穴住居，溝，土坑	土師器，須恵器
6	新屋敷遺跡 2	熊本市	縄文，古代，近世	土坑，住居跡，溝	縄文土器，近世，古代土器
7	二本木遺跡群（駅周辺地域整備）	熊本市	古代，近代	井戸，溝，土坑，近代溝の石垣	須恵器，土師器，陶磁器，和舟
8	二本木遺跡群（合同庁舎）	熊本市	古代，中世	竪穴住居，掘立柱建物	土師器，須恵器，緑釉陶器，白磁，青磁
9	二本木遺跡群（駅舎立体交差）	熊本市	縄文，古代，近世	竪穴住居，掘立柱建物，土坑墓，井戸，溝，土坑	縄文土器，須恵器，土師器，輸入陶磁器，鉄器，砥石，古伊万里
10	二本木遺跡群（駅前広場）	熊本市	縄文，古代，中世，近世以降	住居，井戸，溝	土師器，須恵器，刀子，鈴，風字硯
11	池辺寺関連遺跡	熊本市	縄文，古墳，古代，中世	土坑，杭列，	縄文土器，石器，古墳時代土器，古代土器，中世土器
12	五丁中原遺跡群	熊本市	縄文～中世	住居，土坑	石器，縄文土器，弥生土器，磁器
13	桑鶴遺跡群	熊本市	旧石器，古代，中世	住居，土坑	ナイフ形石器，土師器，須恵器，輸入磁器
14	幅・津留遺跡	阿蘇郡南阿蘇村高森町	弥生	竪穴住居，墓，区画溝，杭列，倉庫，貯蔵穴	弥生土器，石器，鉄器
15	塔平遺跡	上益城郡益城町	縄文，弥生，古墳	住居跡，集石，炉穴，掘立柱建物	縄文土器，石器，弥生土器，鉄器，土師器，須恵器
16	滝川石田遺跡	上益城郡御船町			



こんなことやってます 文化財資料室

熊本県文化財資料室は熊本市城南町（じょうなんまち）にあります。

資料室の役割のひとつが、県文化課が行う発掘調査の成果を整理して報告書を刊行することです。掘り出された出土品、遺跡を記録した図面、写真などは調査が終了すると、資料室に持ち込まれ、通常 1 年以上かけて整理作業が行われます。どんなことをしていくのか、今年度行われている 2 遺跡について紹介します。



瀬田池ノ原遺跡の整理

石器の接合資料

平成16・17年度に調査された、菊池郡大津町大字瀬田にある遺跡です。ここでは7層に渡り、多くの石器が発見された旧石器時代の整理作業について紹介します。

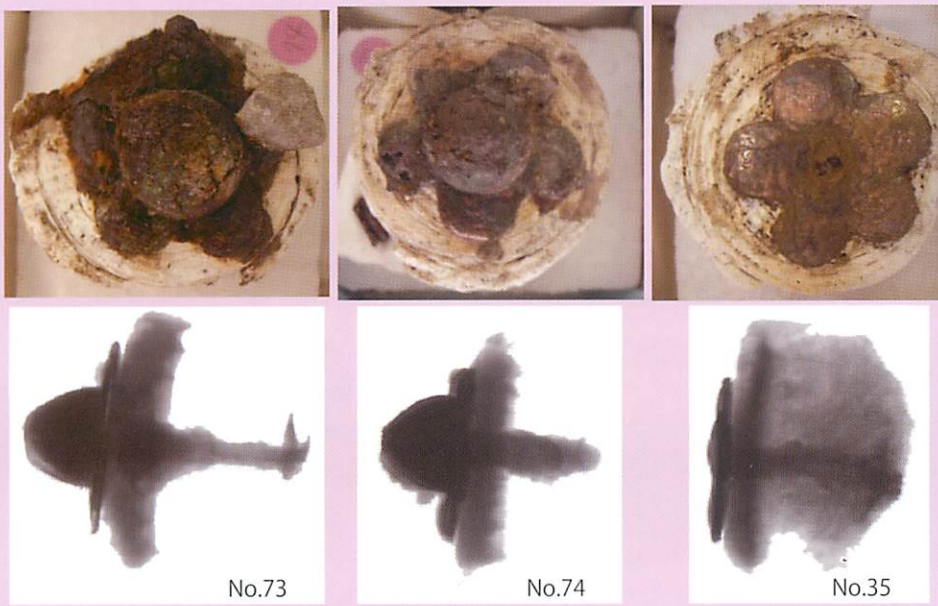
石器は泥を丁寧に洗い流したあと、出土地点、取上げ番号などを一点一点に書き込んで行きます。そして大きさや形状を計測、図化し、写真撮影による記録を行います。

石器を石の種類や特徴で分けた後、注意深く観察すると、割れ面がピッタリ合う（接合できる）石同士が見つかります。のり付けしながら根気よくこの作業を続けていくと、石のかたまり（接合資料）ができていきます。こうすることで、当時の人々が、この場所で石を打ち欠きながら石の道具を作り出していった過程がわかってくるのです。

また、石の種類とその原産地を調べることで人々の移動範囲が推測できるなど、石器を詳細に観察することによって、当時の人々の生活の様子をいろいろ知ることができます。

北岡横穴群の整理

熊本市春日一丁目にある遺跡で、平成19年度の発掘調査で多くの須恵器、金属製品、装身具などが見つかっています。整理作業では、須恵器は水洗いし、破片一点一点に出土地点などを書き込んだ後、接合してもとの器形に復原していきます。金属製品は、慎重に土を落とし、ラベルを付けます。



貝製飾金具X線写真

横穴墓のひとつから出土した3点の貝製飾金具は、馬にかけるベルトに取付けるもので、南西諸島で採れるイモガイを用いためずらしい遺物です。細工した貝殻を金メッキした金具で挟んだ構造で、金具はさびて貝殻はもろくなっていました。このような遺物には、X線を使った写真撮影や分析により、構造や材質を明らかにしていくことも行います。劣化が進まないよう保存処理も必要になります。

現在、多くのスタッフの協力で作業を進めています。こうした作業の積み重ねから古墳時代の人々の生活や埋葬を行う時の様子に少しずつ近づくことができます。

■ 史跡鞠智城跡の特別史跡指定・国営公園化を目指しています。

鞠智城は、山鹿市と菊池市にかけて所在する、全国に 11 城ある古代山城の一つとして、国史跡に指定されています。昭和 42 年から始められた発掘調査は今年で 31 次を数え、これまでに発見された貴重な遺構や遺物については「温故創生館」(入館料無料)で展示解説されています。中でも昨年度貯水池跡から発見された「百済菩薩立像」は、百済の貴族が直接築城に関わったとする『日本書紀』の記述内容を裏付ける大発見として国内外から大きく注目を集めています。熊本県では、現在、特別史跡指定・国営公園化に向けた様々な取り組みを進めています。7 月 25 日には「鞠智城東京シンポジウム」を開催。700 名を超える多くの方の参加により、鞠智城への関心の高さを窺わせました。

【お問い合わせ】 熊本県立装飾古墳館分館 歴史公園鞠智城・温故創生館
住所 〒 861-0425 熊本県山鹿市菊鹿町米原 443-1 TEL 0968(48)3178
温故創生館 HP http://www.kofunkan.pref.kumamoto.jp/kikuchijo/

■世界遺産登録に向けて 〈平成 21 年度の取り組み〉

熊本県では、県内の貴重な文化資産の価値を見つめ直し、未来に引き継いでいくため、世界遺産への登録を目指しており、市町村や関係各方面の皆さんと連携して次のような取組みを進めてきました。

「九州・山口の近代化産業遺産群」については、国内外の専門家による専門家委員会を中心に調査検討を進め、10 月に提言書として意見を取りまとめました。**「天草のキリスト教関連資産」**については、文化財の国指定に向けての学術検討会や文化庁、専門家による現地調査を行いました。

「阿蘇」については 8 月 5 日、県と阿蘇郡市各市町村が協力連携していくための、基本協定を結ぶとともに、蒲島知事を会長とする「阿蘇世界文化遺産登録推進協議会」を設立しました。

また、それぞれの資産ごとに県内各地や東京でのシンポジウム開催、地域の皆様を対象とした説明会などの広報活動を展開して参りました。

「九州・山口の近代化産業遺産群」

第 3 回専門家委員会（4 月）

「阿蘇」

基本協定調印式（8 月）

「天草のキリスト教関連資産」

文化庁担当官による現地調査（1 月）

【お問い合わせ】 熊本県教育庁文化課 TEL096（333）2705
世界遺産登録推進 HP http://www.pref.kumamoto.jp/site/sekaiisan/

文化財通信くまもと第 28 号 平成 22 年 3 月 31 日
発行：熊本県教育委員会文化課 TEL 096(333)2704 FAX 096(384)7220
編集：熊本県文化財資料室 TEL 0964(28)4933 FAX 0964(28)7798
印刷：有限会社 あすなろ印刷

21 教委 教文
④ 007